囲炉裏を囲んで民泊の家族と一緒に食事

農機具の清掃を手伝う生徒たち

泊先の人と過ごす。 どを行いながら昼まで民

道後温泉に移動

く知らない人たちと一緒 て家業を手伝いながら全 プすること。民泊を通じ

庭の迷惑にならず、

式を経て、民泊を開始。

3日目は、家業体験な

の技量をブラッシュアッ

は人懐っこい子が多いの りする。また、この学年

の行程を作り、

さらにそ

かったり実感がなかった

が7地区に分かれ、入村八幡浜に入る。7クラス

行と同様に生徒主体で旅都まで巡った関西修学旅

経てスー。

パーに並んでい

肉などがどういう過程を

次産業は縁遠い。野菜や

リーで移動し、

愛媛県の

高校1年次に奈良から京

泉に全員で宿泊した。

2日目の午前中にフェ

狙いは三つ。

今回の修学旅行の主な

子どもたちにとって第1

人教諭は「都内で暮らす

目的地の大分県・別府温

京に戻った。

7コースに分かれて、

各

後、新幹線を利用して東から新大阪までを巡った

(学旅行を担当した大島勇) 生徒たちの思い出に残る

味を の新

地の名所などを巡った。

州に降り立ち、熊本2コ

- 日目は、飛行機で九

ちで班を作り、鷲羽山か

の目玉としていた民泊

区と

特にこの年の修学旅行

は、教諭たちの狙い通り、

うという意図があった。 ちに楽しく過ごしてもら

年の

後の行事であり、

生徒た

3点目は、2年生での最

もあった」と語る。

に過ごすことが2点目。

ら神戸までを巡る。

6日目も同じ班で神戸

ース、福岡5コースの計

京都府·

立亀岡高等学

22年11月8~11日

の研修旅行もジェネリッ

同校では2年生で実施

重要な行事と位置付けて

なる環境で学ぶ同世代と が定着。3年前からは異

クスキルを高めるための

九州方面

ている。

の満足度の高さから、長伸長が図れること、生徒伸長が図れること、生徒が別れること、生徒が別れること、生徒が別れること、生徒が別れること、生徒が別が多い。

きっかけ」と研修旅行担いると提案を受けたのが

介教諭は振り返る。 学校間交流担当の

近別での探究的な学習に

研修メニューが充実してのモデル都市』であり、

深化にもつながった」

上大と

多感な高校生にとって教育旅行(修学旅行)は学 生時代の一大イベントだ。楽しみでもあり、また不 安でもある。非日常の場に身を置き、その土地なら ではのものに触れ、見て、人と接することで視野が 広がることもある。ここでは充実した教育旅行 学旅行)を実施する2校の取り組みを紹介する。

校共学部理数イン

理系を表すのでなく、

示したもので、理数は、 生徒を育成する人物像を

した2年生の修学旅行

いろいろな乗り物を利用

人が参加した。

新幹線、バスなど

生の全7クラス、230 の5泊6日で実施。2年

うな役割を担っている。

「理数インター」とは

位置付けている。

2022年11

つ、生徒が目指す夢に対

-である生徒を見守りつ

施する。どの学年でも行強合宿」という名称で実

して並走するコーチのよ

はなく、日常の学校生活 うことから特別なもので

の延長線上にある行事と

で決まり、それを踏まえ、

あるため各所を周遊する

り

それらの条件に合致

旅行期間が1週間近く

向が学年教諭たちにあ

て取り入れたいという意 る民泊を同校として初め

なみ海道を渡って鷲羽

に向かうコースと、

という行程が最初に大枠

したのが西日本だった。

11月16日から21日まで

修を実施した。

5日目は、

生徒たちが飛行機、フェ

宝仙学園中学・高等学

となって各種の行事を進

ンター

生徒が主体

伝える能力」を指す。

富士晴

論理的に考えて相手に

ていくのが大きな特徴

付ける人材」という意味

農業などの仕事を手伝う

生徒の思い出に残る民泊

宝仙学園中学・高等学校

愛媛県八幡浜など西日本

22年11月16~

Ź1 日

修旅行」

、2年生は

を行き先としていたが、

足度が高いといわれてい

盛り上がった。

4日目は、

修学旅行はアメリカ

学旅行」、3年生は

難になり、国内となった。コロナ禍でその実施が困

Ŋ

1年生では「関西研

う学習行事は各学年であ

高等学校での宿泊を伴

巡る西日本周遊旅行。は、九州、四国、関西

元

選んだ。また、生徒の満理由で行き先に西日本を

して移動しやすいという

らの社会に通じる力 普通科に府内唯一の「美立の口丹地域の伝統校。 ェネリックスキル」 設しているのが特徴だ。 るほか、探究文理科を併 術・工芸専攻」を設置す 彦校長)は1904年創 (京都府亀岡市、 10年は全校でこれか 中嶋知 の育 ジ

成に注力。同スキル



京都府立亀岡高等学校

加藤慶宣教諭





















井嵜裕教諭 な探究の時間を「ジェネ図っている。また総合的 する同校独自のルーブリ 学校行事ごとにどのスキ ト」を作成し、各学期や 能力に分け5段階で評価 いたのかを自己評価さ ック「Can ルがどの段階まで身に付 能力の着実な伸長を doリス

壱岐高校でのプレゼンテーション

S研修の後、 の学校間交流と島内班別

表用の亀岡紹介動画の製

習を行い、4日目は博多和祈念記念館での平和学 壱岐を出た後、大刀洗平 GS研修を組み込んだ。 途中に北九州市でのSD 研修を行った。 3日目は 度は初日、壱岐への移動 来と変わらないが、今年 施した。旅程の大枠は従 駅周辺での班別研修を実 を深めた。結果、 けに、事前にボ っていなかったため、北 SDGs自体の学習は行 とも把握していた。だがとして取り組んでいるこ 作を行っており、亀岡市 州市での研修をきっか 「SDGs未来都市」

ムを使って学ぶなど知識 年部長の加藤慶宣教諭の 内だけの人間関係が目立 ラムが違うためにクラス ったという。そこで、 学

科や専攻ごとにカリキュ 生徒同士での活動の連続 んどの生徒が活動ごとに に生徒も最初は苦労して と協力して課題



日で実施した。1日目に 11月8~11日に、3泊4 22年度の修学旅行は、 2日目は壱岐高校で 壱岐島に渡 を誘致するには?」をテ 念頭に「亀岡に研修旅行 に、壱岐高校での発表を ネリックスキルの時間 マにした地元調査や発 今年度、2年生はジェ 成した動画を見せながら 亀岡の魅力を紹介するプ 発表した。旅行後には壱 施。聞き手の壱岐高生を 替えながら各班3回ずつ レゼンテー ションを実

性格の生徒が多い上、 元々付き合いの深くなど 班別研修ごとに、 を越えるなど多様なメン 班別研修、宿泊先、 -で別々に編成した。 クラス 博多

クスキルの伸長などを目 め合うことやジェネリッ

岐での発表を生かして内 研修旅行でも同じ目的 SDGs研修、

活動を行ってきた。 り払って学年行事や探究

る非日常体験に加え、島 然と歴史文化に触れられ いる。近年は、豊かな自

学校間交流を始めた。

の長崎県立壱岐高校とのの交流を図るべく、島内

に分かれて施設見学など 銀天街など六つのコー 街」として知られる魚町 初めての「SDGs商店 当の井嵜裕教諭。日本で

目標に、班単位でジェネ

「協働する力」の伸長を

ながる力」「挑戦する力」

リックスキルの「人とつ

学校間交流では、ジェネ

2日目の壱岐高校との

リックスキルの時間に作

学校間交流 エネリックスキル育成 班別研修

ロナ禍もあって内向きの川上教諭によると、コ 向けた発表会を行った。 容をブラッシュアップ。 総まとめとして1年生に

的に、クラスの垣根を取



かった生徒たちだが、

な生徒が多いので例年

旅行の成果について

の意識の高まりが見ら

などの感想が挙がるな

くり 業を で受 た生

さつをする場面



夜は修学旅行委員が企画 したイベントが行われ、 して、観光を楽しみ宿泊。 離村式での記念撮影



口過ごしただけも和気あい



